



No. 97

# 赤磐市立赤坂図書館



外観

平成十七年三月七日に誕生した赤磐市の中央に位置する赤坂地域内には、「お笑い赤坂亭」や「赤坂適塾」などの個性的な文化施設が数多く点在しています。その一つである赤磐市立赤坂図書館の歴史は古く、昭和四十六年の赤坂町中央公民館の完成と同時に開室して以来、三十四年の間、公民館図書室として地域住民の文化と教養の要になってきました。そして赤磐市の合併に伴ってこ

の度、赤磐市立赤坂図書館へと生まれ変わりました。

平成元年時の蔵書数は約四千五百冊でしたが、十七年後の現在では約二万八千冊にまで増えました。それでも赤坂図書館は、規模としてはまだまだ小さい図書館なので、来館される方々にとって利用しやすい快適な場所だと思っただけのように日々努めています。

まずは、幅広い年齢層の利用者の要望にお応えし、気軽に図書館へ足を運んでいただけるようにと、受入雑誌の内容を大きく見直しました。

今までの文芸や趣味の雑誌だけでなく、女性誌やタウン情報誌などを新たに増やしました。その甲斐あって、雑誌架付近の利用が以前よりも随分活発になっています。

さらに、利用が多いにも関わらず、図書館最奥に配架されている料理や手芸の本が遠くて不便だという利用者の方の声にこたえて、それらを入り口に最も近い書架へと移動させました。この移動で、今まで窮屈に収まっ

いた料理や手芸の本も余裕をもって配架できるようになり、利用者の方にも好評でした。



図書館内の様子

このように、図書館の都合ではなく利用者の視点に立って、人と人の触れ合いがある対応ができるように図書館員一同で心掛けています。

個々の利用者へのサービスと並行して、学校図書館との連携・協力にも力を注いでいます。今年度から当館の図書館管理システムが赤坂地域内全ての小・中学校と統合された事により、図書館から各校へ団体貸出した図書、各校が独自に貸出・返却できるようになっているのが大きな特徴です。各校の読書環境整備にも一役買い、図書館の図書の利用率も上がるこのシステムによって、公

共・学校図書館間の垣根を越えた地域一体型の協力体制が出来上がり、教育活動の充実に役立っています。そして、毎月第三土曜日には、地元の「まるパンの会」のみなさんによって、絵本読み聞かせ会が開かれています。



絵本読み聞かせ会の様子

毎回簡単な工作や手遊びも交えながら、子どもたちを素敵な絵本の世界へと連れて行ったださるこの読み聞かせ会へは、親子連れで参加する方も多く、これからも本と人をつなぐ大切な交流会として続けていきたいと思えます。

合併に伴って、一枚の利用者カードで市内全ての図書館が利用できるようにする赤磐市内の図書館管理システム統合に向けて、今着々と準備

が進んでいます。このシステム統合完了後は、赤坂地域以外からも、たくさんの方にご来館いただくようになると思います。そうなった時、赤坂図書館は他に類のない快適な図書館だった、と思っただけでなく、小さなことからコツコツと努力していきたいと思います。

## ● 利用案内 ●

### \* 開館時間

午前十時～午後六時

### \* 休館日

月曜日・第三日曜日・祝日・月末整理日(土・日を除く)・年末年始

特別整理期間(年間十日以内)

### \* 貸出期間

二週間以内(一回だけ延長可)  
(おかだ あきこ)

# 中国学園図書館企画

## 「絵本と子ども

〜ビッグブックの世界〜

世界的作家ジョイ・コリー女史  
をお招きして

## 【図書館企画の経緯】

今日の社会では、大学が従来のよ

うに知的財産を学内にとどめるのではなく、積極的に外部に公開し、地域社会の知的発展に貢献していくことが期待されています。本学園は、大学・短大併せて六分野、二専攻科の多彩な学生を世に送り出していますが、必ずしもそれらの地域社会の要望に対応しているとは言えないのが現状であり、大学がいかに地域と交流し、連携しながら発展していくかが、重要な課題の一つであると考えられます。

その意味で、大学図書館の使命は、学内の教育・研究を支援することばかりでなく、地域にとって有用な知的活動を企画し支援していくことにあり、本学園の図書館も率先して地域に開かれた有効な企画を持つことが重要であると考えられます。

そこで、本学園図書館は、図書館運営委員会を中心に、学生・教職員の利用増加をはかると共に、図書館活動をいかに地域に反映させていくかを模索してきました。そして、このたび平成十八年度に四年制の「子ども学部子ども学科」が創設されるのに合わせて、幼児教育の分野を中心とした活動を計画することとなり、展示・講演「絵本と子ども〜ビッグブックの世界〜」を企画しました。そして、幸いなことに、ビッグブックの世界的ベストセラー作家である

ジョイ・コリー女史の本が本学保育学科の加藤教授と尾崎助教によって日本語に翻訳され、その出版を記念して、ジョイ・コリー女史が来日されることになりました。その経緯もあって、今回のジョイ・コリー女史の講演会とビッグブックの展示の企画が実現することになったのです。

では、今回のテーマであるビッグブックについて、日本ではまだ十分に知られていませんので、Q & A形式で少しご紹介しましょう。

**Q** ビッグブックとはどんなものですか？

**A** 普通の絵本のサイズはおよそ十九センチ×二十七センチぐらいの大きさで、もともとお母さんが子どもに一对一で読んであげるために作られたものです。幼稚園や保育園でも一对一で子どもに読んであげることがありますが、やはりクラス全体で読むことが多いのが現状ですから、この大きさの絵本では、集団での読み聞かせには小さすぎるという弱点があります。特に文字の部分になると、ほとんど見えないのが現状です。そこで、みんなに見えるように大きくして、「読んでもらう楽しみ」を味わうと同時に、「みんなと一緒に読む楽しみ」も味わえるようにと作

られたのがビッグブックです。アメリカ、ニュージーランドなどの英語圏の幼稚園・小学校・図書館にはビッグブックが常備されており、小学校教育・幼稚園教育における読み書きの教育の重要な教材・テキストとしても使われ、大変効果をあげています。

**Q** すでに日本でも出版されている大型の絵本とどこが違うのですか？

**A** 確かに、日本でも最近になっていくつかの大型絵本が出版されビッグブックと呼ばれています。それは小型の絵本を単に大きくしただけのもので、ですから、ページ数も多く一ページの文字数も多いので大人が子どもに読んであげるための本です。しかし、ビッグブックは、二十ページ前後で一ページの中には三〜五語なので、子ども自身が読んで楽しめる、子ども自身のための読み物といえます。そこが大きく違うところです。

**Q** ビッグブックは小さい子どもにとつても、良いのですか？

**A** ビッグブックは、子どもが自然に読み書きを学ぶことができますように工夫されていますが、より年少の子どもたちが豊かな「話し言葉」を

発達させるのにも役立ちます。一々二才児の時期は子どもが言葉を話し始め、急速に話し言葉が発達していく時期です。ビッグブックには、①言葉にリズムカルな響きや豊かな抑揚がある。②繰り返しのある言葉や文からできている。③絵と話し言葉が一致している。④3〜5文節の短い基本的な文型で書かれている、といった特徴があるので、言葉の成長発達期にある子どもたちにとっても非常に素晴らしいものです。実際に保育所で一〜二歳の子どもたちが、くいているように見つめている姿を見ると驚きます。

**Q** ジョイ・コリーさんという作家はどんな本を書かれたんですか？  
**A** 彼女はニュージージーランドの作家で、六百冊以上のビッグブックや童話を書いています。そのどれもが子どもの心をとらえた素晴らしい作品です。今回日本語出版された「せんたくおばさん」はその代表作で、世界的なベストセラーになっています。

**【図書館企画の内容】**

一 ビッグブックの展示  
 (十月二十四日〜十一月四日)  
 展示は四つのコーナーに分けて行



いました。まず「ビッグブック」のコーナーがメインで、ジョイ・コリー女史のベストセラーのビッグブック八十一種類、総計九十冊をすべて机の上に並べて展示し、手にとつてゆつくり楽しんで読めるよう工夫しました。「ビッグブックに関する資料」のコーナーでは、ビッグブックの使い方や実践例などの指導書二十点を展示しました。「ジョイ・コリーのビデオ」のコーナーでは、ジョイ・コリー女史自身が登場し見ている人に語りかける楽しいビデオを二本用意し、いつでも上映して見られるようにしました。また、「大型絵本」のコーナーには二十四点展示しました。さらに、パネ

ルボードを五枚用意し、ジョイ・コリー女史の紹介、ビッグブックとはなにか、ビッグブックの内容紹介などを掲示し、よりビッグブックや資料の内容を理解しやすいような工夫をしました。

日本でジョイ・コリー女史のビッグブックがこれだけ展示されたのは、おそらく初めてのことです。展示期間はおよそ十日間でしたが、本学の教職員や学生は勿論のこと、学外からもたくさんの方が来館され、ビッグブックを実際に手にとつて見て、その良さを実感されたようです。

**二 ジョイ・コリー女史講演会**

十月二十九日に本学図書館にて、講演会を行いました。講演会には、ジョイ・コリー女史の親しい友人であり本学客員教授であるマリアン・マニング博士も出席され、ジョイ・コリー女史の紹介をして下さいました。講演の中では、ジョイ・コリー女史自身がビッグブックの使い方を読みながら、ビッグブックの使い方を具体的にお話して下さいました。また、参加者が声を合わせて一緒に「みんなで読む楽しみ」を味わう場面もあり、ビッグブックの魅力を実感することができました。さらに、お話を作るときのエピソードや作品誕生の物語も聞くことができ、



ジョイ・コリー女史の作家としてのまなざしや子ども視点にたった暖かい人柄にふれることができました。

参加された方は九十二名で、図書館関係や公民館、児童館、幼稚園、保護者、大学生、高校生など幅広い方々でした。また、講演会後のアンケートにも、「ビッグブックに興味を持った」、「もっと知りたい」、「実演をまじえてのお話でわかりやすかった」、「児童英語教育の教材としても興味深い、どこで購入できるのか」、「ビッグブックを取り入れて活用したい」などの感想がたくさんありました。そうした点でも地域社会に開かれた図書館の企画は成功だったと言えるでしょう。

(おざき きょうこ)

## 図書館業務研修会報告

### 「図書館における危機管理」

講師：中沢 孝之氏

(草津町立図書館)



#### ☆ きっかけ

私が危機管理の研究を始めるようになったのは、群馬県内の図書館で起こった様々な出来事がきっかけです。駐車場で女の子が連れ去られそうになったり、女性職員へのつきまとい、嫌がらせ、セクハラ行為、盗難、偽利用者（偽の保険証で利用者カードを、それも複数の図書館で作った）ということがあったりしました。雑談の中ではこういう話題が

策がなく、これらをきちんとまとめおくことが必要と考えました。

今日これから話すことが、職場に帰ってすぐ使えるという保証はありません。その人、土地、図書館に合った答えがあるからです。全職員の方に今日の内容を伝えて、アルバイト・嘱託・正規みな合わせて話し合って意識を高めてください。

#### ☆ 図書館は安全か

図書館は安全だと思いますか？安全だと思っている方も多いのではないかと思います。今、図書館は非常に危険なところになりつつあると私は考えています。しかし、図書館職員にそういう意識は薄いようで、女性職員の夜間勤務・土日勤務があったり、カウンターに女性だけ配置したりしています。女性がだめということではありませんが、被害に遭うのは圧倒的に女性が多いです。

利用者も、図書館は安全だと思っていて、荷物や財布を置いたまま外出したりトイレに行ったりしています。その辺りの意識を変えていかなくてはなりません。

#### ☆ 危機の種類

危機には二種類あります。一つは人（利用者や職員）によってひき起こされるもの、もう一つは自然災害です。

危機管理とは、これらが起きない

ように防いだり、最小限の被害でとどめたりすることで、例えば「飲食はできませんよ」「携帯電話は外でお願いします」などの貼紙をしたり、職員の対応を良くしたり、館内美化緑化、花を活けたりきれいなポスターなどで雰囲気をよくしたりすることも含まれます。トイレもきれいにしておくべきです。

危機が起きてしまったときに、被害や影響を最小限に食い止めることも大切です。例えば閉館間に夕立がきて、館内に三十人利用者がいます。どうしますか。ある図書館では利用者をそのまま帰らせてしまい、後日新聞に怒りの投書が載りました。「高齢者や車椅子の人もいたのに、何かあったらどうするんだ」と。この対応は、利用者を守るという点では不適切だったといえます。外に出て雷に打たれたらどうするのか、水に流されたらどうするのか。夕立なら待つていれば収まるのはわかっているのだから、配慮が足りなかった事例といえます。

次に、酔っ払った人が館内にいたらどうするか。ある図書館で、男性職員が注意をして外に出しました。酔っ払った人は、後で頭に来て、事務室に行つてその男性職員を刺しました。時間をかけて対応することも大切です。明らかに迷惑な利用者に

対応しているのであれば周りの利用者も文句は言いません。相手の優位に立つことも大切ですが、力で優位に立とうとすると相手も力で押し返そうとして、いい結果になりません。すぐ何とかしなくてはいけないと焦る気持ちもわかりますが、慌てず相手がどうしてほしいのか、どうしたら上手く打開できるか考えながら対応します。起きてしまったら、とにかく小さく小さくしていくことが大切です。

#### ☆ マニユアルの作成

一番簡単な作り方は、他の図書館のマニユアルをもらうことです。でも使えません。それでは作ったことにはなりません。マニユアルがあるからといって危機はなくならないし減りもしません。何かが起こったときの免罪符やお守りにも決してなりません。今言つたやり方では、簡単だけれど最も使えないマニユアルになります。

別のやり方として、誰かひとりに作らせて職員みんなに回覧します。パラパラと見て判を押します。これも使えません。マニユアルは与えられるものではありません。A4一枚でもいいので、自分の図書館で自分たちの事例に合ったものを作つてほしいと思います。職員全員で話し合つて本当のマニユアルを作つてほ

しいと思います。

マニュアルをすでに作ってあれば、本当に使えるものか、何年も前に作ったマニュアルを何度も何度もコピーして使っていないかを確認してください。もし作成していないならば作りましょうということになります。職場で学習会や研修などをして深めた後、マニュアル作りに入ります。自分の館で起こりうるトラブル、災害についてみんなで挙げていきます。これはあくまでも一人とか二人とかでやるものではなく、全職員でやるものです。ゲームだと思ってください。災害について列挙していきます。うちは後ろに山がある、前に川がある、用水路がある。小さな用水路でも多くの雨が降ったとき氾濫する可能性があるなど、とにかく想像して書いてください。想像力を働かせて予期せぬ事態を考えます。そうやって挙げたものに対してどう対応するか。役職ごとの対応の仕方もありますし、カウンターにいたときどうするかなど、持ち場ごとの対応の仕方もあると思います。あとはこれに自館や他館で実際に起こった事例をあげあわせて検証して、マニュアルを作っていきます。

過去に図書館で起こった事例として、居眠り、財布などの盗難、刃物をカウンター職員に突き立てるとい

うこともありました。カウンターでは鍵や千枚通しを使っても、利用者者に話しかけられた段階ですぐ利用者の見えないところに隠して下さい。書類の下、もしくは引出しなどに入れるといったひと手間をして下さい。また、カウンター越しに利用者と話しているときに、目につくところに利用者情報、利用者カードの申込書を置いておくといいと思います。こういう時も話しかけられた段階ですぐ裏返すというようなひと手間をかけるべきです。

こうした事例や想定される危機を挙げていって誰がどういう対応をしたか(もしくはするか)具体的に書いておきます。それをみんなで見て話し合ってみる。そして綴っておけば、これで十分マニュアルになります。全部を網羅する必要はありません。こうしてひとつずつ積み重ねていってもらえればいいです。いきなりマニュアルを作ろうということになりませんと大変なことになりますから、主要なところだけはとりあえず作っておくのも、ひとつの手だと思います。

地震や水害が起こる地域であればそういうものを優先して作っていくのも大事です。草津は近所に浅間山がありまして、その浅間山の対応としてハザードマップが作成されてい

ます。噴火をしたら、灰がこの辺まで来る、石はこの辺りまで飛んでくるといふのが出ています。多分みなさんの町・村にもハザードマップがあつて、水害や、海に近いところでは津波や高潮の恐れがある地域などが出ておられると思います。こういうものを郷土資料としてそろえて何かあつたら展示する、住民の方に知らせるといふのも図書館のひとつの役割です。

#### ☆ その他の危機対策

みなさん、今日司会をした人はどんな人でしたか。男性でしたか。女性でしたか。どんなネクタイをしていましたか。そういうことを何か事件があつたときに警察に聞かれます。そのとき背の高さとか、答えられませんか。背の高さは、閲覧室であれば書架の何段目くらいの背でしたよと言えらると思います。相手を観察するということも大事です。

また、例えば図書館で刃物を振り回した男が館外に逃げたとします。その図書館のそばには小学校・中学校・幼稚園があります。小中学校の電話番号を言えますか。すぐ電話できますか。危険な人物がいることを電話で伝えれば学校もすぐ対応して何らかの手を打つはずですが、学校が遠い図書館でも通学路になっている所があります。図書館のそばを子ども

もが歩いているかもしれません。ですから近隣の学校の電話番号、交番の電話番号を言えますか。一一〇番でもいいですが、近くの交番に直接連絡できればすぐに助けが来るかもしれません。うち(草津町立図書館)ではパソコンのキーボードのところに草津交番の電話番号を貼つてあります。自分たちも何番かわかるし、悪いこと考えている人も何かあると交番に連絡するんだなあと考えるので抑止効果もあります。

学校が話題に出たついでに、子どもがうるさいという苦情が時々あります。その場で注意するのもいいですが、前もって学校に行つて図書館職員の顔を覚えておいてもらう方がいいですね。図書館というのはこういうルールで使つて下さい、と教えると同時に先生とも連携、顔つなぎができます。子どもを注意するときも最初に教えてあるわけですから、あの時にはこう言ったよね、図書館では静かにするつてお約束だったよねということが言えます。学校との連携は、読書推進だけでなく、危機管理という意味でも太いパイプをもつていた方が有効です。

利用者だけが問題かというところではありません。職員の側にも問題があります。去年の十一月の『岩手経済研究』という雑誌に「岩手県内

小売業接客業の接客マナー」というアンケート結果が出ています。この中で接客マナーが一番悪い業種がどこかわかりますか。市町村役場等の公的機関がダントツで一位です。マナーが悪い、対応が悪い。どういう風に悪いかというと笑顔がない、態度が乱暴、不誠実、長時間待たされる、挨拶が悪い、業務知識が乏しいなどです。カウンター職員の対応というのには大事です。対応を良くしていればクレームも出にくくなります。利用者も言いくくります。接客マナーが良いと感じるのはどこだと思いますか。デパート、ホテルや旅館です。お金をいただいて商品を買って貰うということでは一生懸命です。ある図書館の事務室に入っていくと、黙ってみんなパソコンに向かっています。例えば知らない人や不審な人が入ってきて近くにあるものを盗っていく、職員に危害を加えて逃げていく。警察が来たときにどんな人でしたかと聞かれても全員が私たちみんなパソコンを見ていたのかわかりません、男か女かみんな人だったかも全くわからない。そういうことだつてあります。皆さ

んの事務室に行ってみてください。みんなパソコンに集中して、パソコンの画面しか見ていません。誰かが入って来た時に挨拶をすれば、あなたのことを認識しましたよ、私たちはあなたのことを見ましたよというサインになります。近所の防犯パトロールの鉄則で一番空き巣が嫌うのは何かというと挨拶です。「こんにちは」と声をかけると、もう相手に見られたというのが空き巣には通じるそうです。警察も挨拶を奨励しています。

☆ 最後に

危機管理という言葉があると、利用者にも職員にも、あちこちに注意のビラなどを貼って管理していけばいいと考えがちですが、そういうことではありません。カウンターでは笑顔で挨拶を、そしてサービスもきちんとして、一步事務室に入ったら目が吊り上がるくらい緊張感をもって真剣に取り組んでいただきたいと思えます。今回お配りした資料を机の中に入れておきなにするのではなく、危機管理の事例を県や協会を集めてみようという提案が皆さまの中からできれば今後に役立つと思いますので、みなさんの図書館で考えていただきたいと思えます。

※この文章は、十月五日に開催された図書館業務講習会の午前中の内容

容を中心にとまとめたものです。

岡山県図書館協会  
活動報告

新会員紹介(平成十七年八月一日以降)

◎施設◎

赤磐市立赤坂図書館

◎個人◎

神宝 美子(蓮昌寺佛教図書館)

新役員紹介

異動により、次の通り役員に変更がありました。

◎副会長◎

大崎 鉦一 ↓ 稲葉 英男  
(岡山大学附属図書館)

◎理事◎

笠原 昭則 ↓ 斉藤 邦彦  
(倉敷市立中央図書館)

事業報告

八月二十四日 整理技術講習会  
(参加三十一名)

・ 図書の選定と収集

講師・大村 文誉 氏

(岡山県立図書館)

・ 図書の会計処理と原簿作成  
講師・東根 さやか 氏

(岡山県立倉敷中央高等学校)  
初の試みとして県北で開催。会場

を提供してくださった津山市立図書館の皆さまには大変お世話になりました。

八月二十八日 故黒崎義博氏に記念

品と感謝状を贈呈

九月十四日 第二回企画委員会

十月五日 図書館業務研修会

会場・岡山県立図書館  
(参加六十二名)

・ 図書館における危機管理

講師・中沢 孝之 氏  
(草津町立図書館)

・ 個人情報保護法について

講師・高田 亮 氏  
(岡山県立図書館)

十一月八日 第二回理事会

●会費の納入はお済みですか?

今年度の会費が未納のかたは、至急お納めくださるようよろしくお願い致します。

【振込先】

中国銀行県庁支店 普通預金  
1392369

岡山県図書館協会

事務局長 大谷 正

平成十七年十二月二十日

〒七〇〇一〇八二三

岡山市丸の内二一六一三〇

岡山県立図書館

岡山県図書館協会

会長 松 井 英 治  
(〇八六)一三二四一一二六九